

Brief^{AGIH} AKIMOTO HOSPITAL Letter

秋本病院ブリーフレター

‘07 MAY .vol 37

- 秋本病院の今 —1— p.1~2
＝都市圏の施設としてご利用ください＝
「秋本病院 緩和ケアセンター」を
開設します
- 秋本病院の今 —2— p.3
消化器内視鏡センター長に
山田英二医師が着任しました
- 秋本病院の今 —3— p.3
＝年に1度は健康診断を受けましょう＝
「政府管掌健康保険 生活習慣病予
防健診」を実施しています
「小児の予防接種外来」
「乳幼児健診」を始めました
- 検査の話 p.4
自分でできる「尿チェック」
- ソーシャルワーカーのしごと p.4
最期をどこで迎えるか
- 千一夜医話 p.5
消化器疾患のトレンド
- くすりの話 p.6
「モルヒネ」の誤解
- スタッフの横顔 p.6
企画室長(MSW) 内田 浩稔
検査室長(臨床検査技師) 野口 寛子

essay

オカンの日

巻頭エッセイ

筑豊の炭鉱町で育った“ボク”は美大進学を機に上京し、先の見えない日々を送っていた。ようやくメドも立ち、“オカン”を呼び寄せ暮らし始めるものの、東京タワーを望む病室で母の最期を見届けることになる・・・。

200万部を超える大ベストセラーとなった『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』は、迷惑をかけっぱなしの息子から、無尽蔵の愛を与えてくれた母に贈られた“ラブレター”だ。気恥ずかしいほどの母親賛歌が大きな共感をもって迎えられたのは、「供養のつもり」で書かれた個人の物語の中に、誰もが持っている普遍的な母への思いを発見するからだろう。

私たちは、いつも愛を求めて生きている。しかし、与えられる愛を素直に喜び、感謝することは、なぜかとても難しい。特に親子の絆はあまりに強く日常的すぎて、「ありがとう」の言葉をなかなか口にできない。

しかし、その思いを将来、確実に伝えられるという保障は、実はないのだ。ならば今、感じている喜びや感謝を遠慮せず示してみよう。照れくさければ、「母の日」という便利な日もある。今年は5月13日だが、「オカンの日」と思えば、母親の誕生日でも、自分の給料日でも、すごく晴れた日でもいつだって自由だ。ひろい空の下、それぞれの家で、それぞれのオカンの物語が紡がれていくのは、ちょっと素敵なことかもしれない。



「緩和ケアセンター」を開設します

患者様の生活の質（クオリティー・オブ・ライフ：QOL）の向上をめざして

秋本病院5階に 「緩和ケアセンター」を 開設します

2007年6月、秋本病院「緩和ケアセンター」を開設します。一般に「ホスピス」と呼ばれる施設で、治癒をめざした積極的な治療の効果が期待できなくなった患者様に対し、からだの痛みやこころの苦しみを和らげ、有意義な生活が送れるように援助します。病気を治すことを目的とした治療は行いませんが、体の痛みを取り除き、食欲不振や全身の倦怠感、呼吸困難、不眠、不安などさまざまな症状を和らげる緩和治療を行います。各分野の専門家のサポートにより、患者様が常に自分らしく、豊かな人生の時間を送れるように支援していく施設です。

以前に勤めていた「九州がんセンター」では、小児がんの患者様を診療していました。がん治療の進歩によって小児がんの患者様の多くが治癒するようになりましたが、それでも残念ながら亡くなられる方が未だにいらっしやいます。このような医療の力が及ばない患者様やご家族に出会い、その痛みや思いに触れるうちに、自然と緩和ケアを志すようになりました。

緩和ケアでは、医師、看護師、ソーシャルワーカーなどの専門スタッフの力を結集して患者様を支援します。なかでも、直に患者様をケアし、ご家族にもっとも近い位置にいる看護師の役割は非常に大きいものです。そこで当センターでは、患者様の入院から退院までを一人の看護師が担当する「プライマリナーシング」によって、患者様やご家族の心身の変化をすくい上げたいと考えています。

秋本病院 緩和ケアセンター長・医学博士
永山 淳 ながやま じゅん

九州大学大学院医学研究院卒業。九州大学医学部付属病院、福岡市立こども病院・感染症センター、鹿児島市立病院、九州がんセンターを経て現職。趣味はテニス、映画鑑賞、料理。



●秋本病院 緩和ケアセンターの特徴●

- ◎医師、看護師、ソーシャルワーカー、薬剤師、栄養士などの専門スタッフがチームを組み、心身ともにサポートします。
- ◎「プライマリーナーシング」により、患者様の入院から退院まで一人の看護師が担当します。
- ◎訪問診療（往診）医との連携により、ご自宅に戻られたときも継続した医療が受けられます。

- ◎消化器疾患（腸閉塞、肝疾患）については、特に豊富な実績を持っています。
- ◎福岡の都市部に位置し天神・赤坂・薬院も徒歩圏内。交通アクセスに優れ、ご家族やご友人との面会、外出にも便利です。

緩和ケアセンター フロア案内(5F)



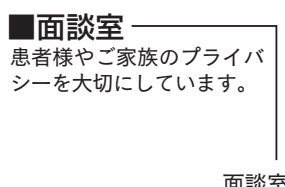
■病室（個室・16床）

明るく落ち着いた雰囲気の病室。すべて個室で、電動ベッド、トイレ、洗面所、冷蔵庫、テレビを設置し、お持ち込みのパソコンも使用できます。



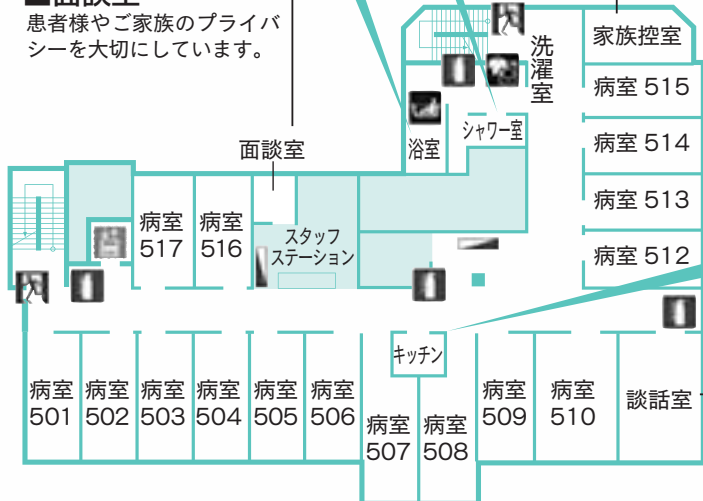
■浴室・シャワー室

心身ともにリラックスできる、清潔で落ち着いた空間です。



■面談室

患者様やご家族のプライバシーを大切にしています。



■家族控え室

ご家族ごとにご利用いただけます。ご希望により宿泊も可能です。



■キッチン

お茶やお食事の用意に自由にお使いください。

■談話室

息抜きのひとときに、自由にご利用ください。

非常口 消化器 消火栓 エレベーター 洗面室 浴室

●スタッフの抱負●



看護部長・看護師
野村 春美 のむら はるみ

センター開設を控え、緩和ケアにおける看護師の役割の大きさを再確認しているところです。患者様とご家族に可能な限り良好なQOLを提供できる支援体制を整え、患者様をお迎えします。



企画室長・医療ソーシャルワーカー
内田 浩稔 うちだ ひろとし

患者様とご家族に寄り添い、終末期の苦痛の一つ「社会的痛み(Social Pain)」を中心に、少しでも苦痛の軽減ができるよう精一杯努力していきたいと思っています。



緩和ケアセンター主任・看護師
黒川 恵美 くろがわ めぐみ

入院された患者様に満足して頂けるような看護を提供し、またお見舞いに来られたご家族にも安心して頂けるようスタッフ一同頑張ります。



薬局長・薬剤師
中村 恭子 なかむら きょうこ

痛みや様々な不快な症状が緩和され、患者様とご家族に充実した時間を過ごしていただけるよう、薬剤の適切な使用に努めていきたいと思っています。

■お問い合わせ・入院相談 医療法人 AGIH 秋本病院 担当／医療ソーシャルワーカーまで TEL092-771-6361

消化器内視鏡センター長に 山田英二医師が着任しました

内科(特に消化器疾患)を専門とする山田英二医師が、当院の消化器内視鏡センター長に着任しました。消化器外科を専門とする秋本院長との連携により、外来・検査・入院までトータルに、かつ専門性の高い医療を提供いたします。

着任にあたって

平成2年に九大を卒業し、第三内科消化器研究室に所属した後、福岡東医療センター、社会保険筑豊病院、九州労災病院で研修を受け、上下部消化管の透視・内視鏡・ポリペクトミー、ERCP・EST・ステント留置・胃がんの粘膜剥離術などに打ち込んできました。今後は、専門領域にとらわれず、院長はじめ他科の先生方の指導を受けながら。複数の病気を抱えておられる患者さまのお役に立てるように努力していく所存です。初めて取り組んで(もてあそばれて)いる電子カルテも、優しい看護師さんの支えにより、戦友になる日がくることを信じています。趣味はピアノです。5年前バイエルでした。今もバイエルです。来世ではソナチネから始めるつもりです。



消化器内視鏡センター長

山田 英二 やまだ えいじ

Profile

日本消化器病学会消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本内科学会認定内科医

診療外来一覧 (2007年4月～)

		診療室	月	火	水	木	金	土
外来	午前 AM 9:00～	1	九大2外 (外科)	古賀 光 (内科)	新 納 (内科)	山 田 (内科・消化器科)	山 田 (内科・消化器科)	岩崎/渋谷 (内科)
		2	内 野 (内科)	--	--	--	--	院 長 (外科・消化器科)
		3	院 長 (外科・消化器科)	院 長 (外科・消化器科)	院 長 (外科・消化器科)	院 長 (外科・消化器科)	孝 橋 (外科)	大嶋/中家 (整形外科)
	午後 PM 2:00～	1	山 田 (内科・消化器科)	山 田 (内科・消化器科)	詠 田 (脳神経外科)	本 多 (内科・消化器科)	武富/川中 (肝臓専門)	--
		2	夏 秋 (循環器科)	--	--	--	--	--
		3	九大2外 (外科)	溝口/上新 (整形外科)	院 長 (外科・消化器科)	古賀正哲 (心臓血管外科 循環器科)	孝 橋 (外科)	--
夜間 診療	PM 5:30～ 7:00	ER	--	院 長	--	--	院 長	--

●診療科目

外科(消化器外科)・内科・胃腸科・
肛門科・心臓血管外科・整形外科・
脳神経外科・放射線科

●外来診療受付時間

午前／8:30～12:30
午後／2:00～5:00
土曜／8:30～12:00

●夜間診療受付時間

火曜・金曜／午後5:00～7:00
(理学療法・X線検査はできません)

●休診日

日曜・祝祭日

※秋本千賀子医師の禁煙外来は、月曜(午前・午後)・
火曜～金曜(午前)の予約制です。

＝年に1度は健康診断を受けましょう＝

「政府管掌健康保険 生活習慣病予防健診」を実施しています

- 健診費用は国が全検査費用の約7割を負担し、残りを事業所(または本人)が負担します。
- 月曜～金曜及び第1・4土曜日に実施します。
- 事業所を通じてお申し込みください。
任意継続被保険者及びその被扶養配偶者の方は、
直接、(財)社会保険健康事業財団福岡県支部まで
お申し込みください。

◎健診の種類

- 一般健診：40歳以上の被保険者と被扶養者である配偶者の方、
35～39歳で生活習慣の改善指導を受けることを希望する被保険者の方
- 付加健診：一般健診を受診する方で40歳または50歳の被保険者
と被扶養者である配偶者の方
- 乳がん・子宮がん検診：一般健診を受診する40歳以上の偶数年
齢の女性の方で受診を希望する方
- 子宮がん検診：20～38歳の偶数年齢の女性の被保険者の方で
受診を希望する方

その他に、ご本人が健診実施機関に直接申し込みを行う「肝炎ウイルス検査」や、
「生活習慣改善フォローアップ健診」もあります。

「小児の予防接種外来」「乳幼児健診」を始めました

担当：秋本千賀子(日本小児科学会専門医) 月曜～金曜(9:00～11:00、16:30～17:00)要予約



検査の話



検査室長・臨床検査技師
野口 寛子
のぐち ひろこ

+自分でできる「尿チェック」+

健康診断でおなじみの「尿検査」。その歴史は古く、紀元前4000年頃、古代ギリシャの医学者・ヒポクラテスが肉眼で尿を検査したのが始まりといわれています。体を傷つけることなく採取でき、繰り返し検査できる尿は、大昔から病気を知る大切な手がかりだったのです。そこで今回は、自分の目でできる簡単な「尿チェック」を紹介します。

色

正常な尿は淡黄色、黄褐色です。無色に近いと糖尿病、赤色だと血尿の疑いがあります。ビタミン剤などを服用すると蛍光黄色になることがあります。

濁り

正常で新鮮な尿は透明です。正常でも混濁を示すことはありますが、病的な場合には血球、粘液、細菌などによって混濁が起きます。

臭い

正常でもわずかに特有の芳香臭がありますが、アンモニア臭は膀胱炎、甘酸っぱい果実臭は糖尿病の疑いがあります。ネギ、

にんにく、ニラ、アスパラガスなどを食べた後や飲酒後の尿はそれぞれ特異な臭気を示します。

量

飲食物量や発汗の程度によって変わりますが、あまりに多かったり少なかったりする場合は腎臓に何らかの障害が考えられます。

回数

排尿回数には個人差があり、食事、気温、運動などでも変わりますが、健康な人で1日4〜6回ほどです。尿路の障害があると頻尿や尿閉になります。

ポイント

採取直後の新鮮な尿でチェックしましょう！

「尿チェック」は簡単にできるうえ、身体の状態を把握し、病気の初期症状を発見するのに有効な手段です。ここでは取り上げていませんが、最近では家庭用の尿検査試験紙が普及し、さらに手軽になりました。ただし異常が認められたら自分勝手に診断をせず、きちんと医師に相談しましょう。

ソーシャルワーカーのしごと

「最期をどこで迎えるか」

何年か前の話ですが、泌尿器のがんに侵されたある患者さんがいました。がんが脳に転移した事と脳梗塞で寝たきりとなり、終末期の状態でした。ご家族は以前入院していた大学病院に戻ることを希望されましたが、再入院は難しい状況でした。ホスピスの提案にご家族は「死の宣告をするように」と迷われました。



待つだけの場所ではなく、死を前向きにとらえ、残された時間をご家族と共有するための...というような話をした覚えがあります。ようやくご家族も気持ちを切り替えることができ、一緒にホスピスの見学に行きました。ご家族はホスピスがとても気に入ったようでしたが、自宅から遠かったので結局断念されました。在宅ホスピス(在宅での終末期ケア)も検討しましたが、自宅付近での体制が不十分でご家族の不安も大きく、これも断念せざるを得ませんでした。

奔走の末、終末期医療に理解ある医師が住診する在宅型施設をようやく見つけました。ご家族もやっと安心されて、最終的にその施設への入所を決断されました。

人生の最期をどこでどのように迎えるかという事は、とても大切なことで難しい問題でもあります。病院、その他の施設・自宅など、本人や家族の想いに少しでも近づくことができるように、最期を迎えるためのお手伝いをするのもソーシャルワーカーの大事な仕事のひとつです。



企画室長
医療ソーシャルワーカー
社会福祉士・精神保健福祉士
介護支援専門員
内田 浩稔
うちだ ひろとし



千一夜医話



院長・医学博士
秋本 亮一
あきもと りょういち

消化器疾患の トレンド

医学はまさに日進月歩で、昨日まで定説とされていたことが全く覆される事も珍しくありません。世界中の研究成果や新しい知見が発表されるのが学会であり、われわれも常に新しい情報を取り入れ変化に遅れないように努力しています。今回は、消化器関連学会での最近の話題をいくつかご紹介し、皆さまのご参考にしていただきたいと思います。

1. 内視鏡治療

今、注目を集めている内視鏡治療法は、早期胃がんに対する切開・剥離法です。これは、「内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)」と言われ、内視鏡先端から切開剥離用の道具(ITナ이프など)を使って病変を粘膜下層ごとがし取る技術です。従来の「粘膜切除術(EMR)」と比べてより大きな病変を一回の切除で取り去ることができるのが大きな特徴です。もちろんすべての早期胃がんにできる技術ではなく、病変の大きさや深達度・組織型などに条件があり適応は限られます。また技術的にも難易度が高く、出血や穿孔(胃壁に穴が開く)などの合併症の確率も高くなります。

早期大腸がんも内視鏡治療をすることが多くなっていますが、こちらにも適応は慎重に選ぶ必要があります。

2. 機能性胃腸症

明らかに消化管の症状があるのに、内視鏡検査をしても何も異常が見つからない疾患を「機能性胃腸症(FD)」と呼んでいます。その原因として

- ①胃の運動不全 ②胃の知覚過敏
- ③胃酸分泌過多 ④ピロリ菌感染
- ⑤社会心理的要因

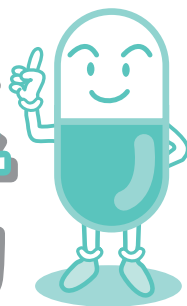
などが推察されていますが、特に注目されているのが胃酸分泌との関係です。過剰な胃酸が十二指腸に流れると膨満感、悪心、胃痛などの症状が起こり、食道に逆流すると胸焼けなどの症状が起こると推察されています。悩んでいる方はかなり多く、現時点でも薬はかなり良くなっていますが、今後の研究成果が待たれます。

3. ピロリ菌

胃の粘膜の中に生息するピロリ菌を発見したR・ウオーレンとB・マーシャルは2005年のノーベル医学生理学賞を受賞しました。それまでは胃の中には強い酸があるので細菌は生息しないと考えられていました。ピロリ菌を治療(除菌と言います)することにより、胃かいようや十二指腸かいようの再発率を劇的に低下させることができました。

今はピロリ菌と発がんの関係の研究が行われています。ピロリ菌が感染した胃粘膜は発がんの高危険群であることは実証されましたが、除菌することで発がんを抑制できるかどうかはまだ立証されていません。





くすりの話



薬局長・薬剤師
中村 恭子
なかむら きょうこ

「モルヒネ」の誤解

がんの痛みを治療する方法は、WHO（世界保健機関）が1986年に発表した「がん疼痛治療法」で確立され、日本でもこれを取り入れてモルヒネを主とした疼痛治療が主流になっています。モルヒネの使用量も年々増加する傾向にありますが、他の先進諸国と比べるとまだ十分とはいえません。これは日本ではモルヒネに対する誤解や偏見を持つ人がいまだに多いことが原因のひとつと考えられています。

「中毒になる」「命を縮める」「がんの末期だけに使用する薬だ」これらの誤解から、モルヒネに心理的な抵抗を感じる方もいます。しかし、モルヒネは医療用麻薬としてごく一般的に使われており、医療目的で適正に用いれば、麻薬中毒や命を縮めるといった心配はありません。また、がんの早期、末期に関係なく強い痛みの治療に使われる薬で、末期だけに使用する薬でもありません。痛みの強さや性質は患者さんによってさまざまですから、使用量が多いから病状がより重いということではないのです。

がん患者さんの7割以上になんらかの身体的痛みが存在するといわれていますが、現在ではモルヒネを中心とした薬によって痛みの9割以上を緩和できるようになっています。痛みが存在すると、夜眠れなくなったり、食欲が落ち精神的にも不安定になったりと、日常生活に支障をきたしてしまいます。人生の大切な時間をよりよい充実したものにするには、医療用麻薬への正しい知識を持ち、痛みをコントロールすることがとても大切なのです。

ふわり♪ 确实 検査のプロは 絵もウマイ!!



検査室長・臨床検査技師
野口 寛子
のぐち ひろこ

検査室に内線電話をかけると、電話口から「あーい」というホンワカした声がいつも返ってきます。小柄でキュートな野口さんは、性格も見た目と同じくかわいらしく優しい女性です。実家には犬が4匹もいるそうで、その優しい性格はきっと動物にも好かれていることでしょう。

そんな彼女の特技はイラストを描くこと!! イラストレータ級の腕前は、院内のポスターにも発揮されています。手描きならではの、ふわり♪とあたたか〜い作風をぜひチェックしてみてくださいね。

紹介者：花粉はスギよりヒノキが辛いかな

にっこり笑って 病院を支える 縁の下の力持ち!!



企画室長(MSW)
内田 浩稔
うちだ ひろとし

ごらんの通り、とても優しく穏やかで、「癒し系」の内田さん。ソーシャルワーカーに加えて企画室長としての顔も持ち、電子カルテの運用なども任せられ、あれこれ多忙な毎日です。

そんな内田さんも家庭では2児のパパ。愛する娘さんたちに囲まれてデレっとして顔が目に見えます。最近、「こはる」というワンちゃんが家族の一員となり、毎日がさらに賑やかだとか。内田さんの力の源は家族の愛情なんですね。いやはや、うらやましい限りです(笑)。

紹介者：まるこ



STAFF PROFILE

スタッフの横顔

職員の素顔(?)を紹介するこのコーナー。今回は、笑顔が印象的なふたりの登場です。さて、どんな話が聞けるかな?



Information of AKIMOTO

Activity of a committee

当院の新しい委員会活動をご紹介します 「NST委員会」

昨年発足した「NST委員会」(Nutrition Support Team＝栄養サポートチーム)では、医師、看護師、栄養士、薬剤師などが力を合わせて、入院患者様の適切な栄養管理に努めています。食事摂取の少ない患者様に対して、以前は末梢静脈や中心静脈からの点滴が主な栄養補給でした。しかし最近では、血管に直接水分や栄養を入れる点滴では、使用されない腸粘膜が萎縮し、腸の免疫能が低下することが明らかになっています。そこで当院では、免疫能を持ち外界からの細菌の侵入を防ぐことができる腸をできるだけ使用するなど、患者様のQOL(生活の質)の向上につながる栄養管理を行っています。

NSTの活動

- ◎入院患者様の栄養評価(栄養管理が必要か否か)
- ◎患者様の状態や疾患に応じた栄養管理方法の指導

NSTの目的

- ◎栄養管理に伴う合併症の予防、早期発見、治療
- ◎患者様の早期退院、社会復帰をサポート



筋蛋白や体脂肪をみるための身体計測

特に栄養管理が必要と思われる患者様には、身体測定や診察を行っています。栄養についての疑問がある、体重が減ってきた、食欲がないなどのお悩みがありましたら、医師、看護師にお気軽にお尋ねください。

(文責 看護師 小川 香恵)



適切な栄養管理がなされているか月に1度の会議でチェックします

Staff's tracing

スタッフもスキルアップに励んでいます

【院内研修】

- 接遇研修「豊かな感性と接遇」2006.10.4
講師：学研パル専任講師 田中裕士氏
- 「個人情報保護法と電子カルテシステム」2006.11.8
講師：企画室長 内田浩稔
- 緩和ケア研修会
2006.11.13～2007.4.11
第1回「緩和ケア・ホスピスとは？」
講師：企画室長 内田浩稔
- 第2回「当院における緩和ケア」
講師：院長 秋本亮一
- 第3回「医療用麻薬によるがん疼痛治療の考え方」
講師：大日本住友製薬(株) ペインケア部 細川泰博氏
- 第4回「せん妄・鎮静について」
講師：内科 古賀光



【院外研修】

- 福岡市救急病院主催「救急車同乗研修」
2006.8.29～31
参加者：看護師 前畑桂子、宮崎こずえ、土屋利恵
- ヘルスケアリソース研究所主催「感染管理セミナー」
2006.10.14 参加者：看護師 大畑真由美
- 「福岡県保健医療・福祉職員海外派遣研修 オーストラリア・ニュージーランド」
2006.10.17～10.26
参加者：病棟主任 小宮奈津子
- 福岡市救急病院協会主催「心肺蘇生法研修会」
2006.11.14
参加者：看護師 田中知里、牟田都茂子
- 福岡市救急病院協会主催「トリアージ研修会」
2006.12.19
参加者：看護師 安部早苗、牟田都茂子

【取得資格】

- 介護支援専門員 外来看護師 川原知子
- 診療情報管理士 総務課 稲光理絵、田中理子

編集後記

天神西通りからこの地へ来て、早いもので約2年半になります。移転は当院に大きな変化をもたらし、今年もまた変化の年になりそうです。このマロニエの木は、西通りから移植された今も変わらぬ素敵な花を咲かせています。変わらぬものも大事にしたいと思う今日この頃です。(内田)

秋本病院 プリーフレター Vol.37 2007年5月発行
発行者／秋本亮一 発行所／医療法人AGIH 秋本病院
〒810-0023 福岡市中央区警固1丁目8-3
TEL.092-771-6361 FAX.092-771-9984



GW前後に咲くマロニエ。ピンクの花が見事です！



医療法人 AGIH

秋本病院

日本医療機能評価機構認定病院
消化器内視鏡センター・健診センター
緩和ケアセンター

<http://www.akimoto-hospital.jp>